

第9回 伊勢原市立小中学校の望ましい学校規模等に関する在り方検討会議

- 【1】 日 時 令和8年1月22日（木）午前10時から午前11時57分
- 【2】 場 所 伊勢原市役所3階 議会全員協議会室
- 【3】 出席委員 朝倉会長、前場副会長、梶田委員、本間委員、櫻井委員、古住委員、菅原委員、飯島委員、吉川委員、嶋田委員
- 【4】 欠席委員 0名
- 【5】 出席職員 宮村教育長、熊澤教育部長、今井学校教育担当部長、立花歴史文化推進担当部長、瀬尾参事兼教育総務課長、畠山教育総務課施設担当課長、守屋参事兼学校教育課長、西野教育指導課長、田中教育センター所長、青木社会教育課長、窪田教育総務課係長
- 【6】 傍 聴 者 0名
- 【7】 内 容
- 1 開会
 - 2 教育長あいさつ
 - 3 議題
 - (1) 前回（第8回）会議の概要について 【資料1】
 - (2) パブリックコメントの実施結果等について 【資料2】
 - (3) 委員からの意見の取りまとめについて 【資料3】
 - 4 閉会
- 【8】 配布資料
- ・ 次第・配付資料一覧
 - ・ 【資料1】 第8回伊勢原市立小中学校の望ましい学校規模等に関する在り方検討会議（概要）
 - ・ 【資料2】 市立小中学校の望ましい学校規模等に関する基本方針（案）のパブリックコメントの実施結果等について
 - ・ 【資料3】 委員からの主な意見
 - ・ 【参考資料】 伊勢原市立小中学校の望ましい学校規模等に関する基本方針（案）

会議録

【1 開会】

○事務局

定刻になりました。

ただ今から「第9回伊勢原市立小中学校の望ましい学校規模等に関する在り方検討会議」を開催いたします。

本会議は「伊勢原市審議会等の公開に関する要綱」に基づき、原則、会議は公開といたします。

また、後日、会議録を市のホームページで公開させていただきます。あわせて、会議録作成のため、録音させていただきますので、ご理解をお願い申し上げます。それでは、次第に沿って進行いたします。次第2【教育長あいさつ】です。宮村教育長、よろしくお願いいたします。

【2 教育長あいさつ】

○教育長

本日は、お忙しい中、御出席いただき、誠にありがとうございます。

本検討会議は、令和6年7月23日に第1回目の会議を開催し、本日で第9回目、最終回になります。

前回の第8回会議では、基本方針案をご説明させていただき、委員の皆様からは、特に、今後の大山小学校の検討に関する表現ですとか、委員の皆様の御意見を方針案に記載することなどについて、御意見をいただきました。

その後、方針案については、昨年12月8日から今年1月7日までの1か月間をかけ、パブリックコメントを実施しました。あわせて12月14日（日）には、中央公民館にて市民説明会を開催しました。2部構成にし、第1部では基本方針案の内容を説明し、第2部では「これからの学校像」について、市民の皆様からも御意見を頂戴しました。

個人的には、方針案で示されている「これからの学校像」は気に入っていきまして、「多様な人や社会との関わりの中で、児童生徒一人ひとりの可能性を引き出す学校」の「関わり」という言葉と「可能性」という言葉を大切にしていきたいと感じています。

本日の会議は、パブリックコメントや市民説明会の結果、そして方針案へ掲載する委員の皆様の御意見について、事務局から説明させていただきます。

本日も限られた時間ではございますが、忌憚のない御意見を皆様から頂戴できればと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【3 議題】

(1) 前回(第8回)会議の概要について 【資料1】

○会長

議題(1)「前回(第8回)会議の概要について」、事務局より説明をお願いします。

○事務局

昨年10月23日(木)に開催いたしました第8回検討会議の概要についてご説明いたします。

前回会議は、第7回会議の素案に対していただきました御意見等を踏まえ修正をいたしました基本方針(案)について、ご説明いたしました。

項番4「主な指摘事項及び意見」をご覧ください。

まず、(1)基本方針案全体を通した指摘事項及び意見です。

市民の方は、大山小学校が統廃合するのではないかと心配していると思うので、特定の学校の統廃合が決定していると誤解されないよう、本検討会議での委員の皆様様の意見を基本方針の附属資料等へ掲載した方が良いのでは、との御意見をいただきました。

こちらについては、基本方針の巻末の附属資料として掲載させていただきたいと考えておりました、その内容について、本日の議題(3)【資料3】で後ほど、皆様に御確認いただきたいと思いますと考えております。

つづいて、2点目の要約版の作成につきましては、基本方針が完成し、公表する段階で、要約版についても作成・公表を予定しております。

つづいて、(2)章別の内容に対していただいた指摘事項・御意見です。

誤字・脱字を除き、文章表現で御意見をいただきました内容を記載しておりますが、3点の御意見について、基本方針案に反映させていただきました。

本日お配りしております参考資料の該当ページの修正箇所を下線を引いておりますので、御確認をいただければと思います。

説明は以上です。

○会長

何かご質問やご意見はございますか。

「(1)全体を通した指摘事項・意見」について、前回の会議では、大山小の統廃合について気にされている方が多いと思いますので、統廃合が決定しているような誤解をされないように気を付けたほうがよいという意見が出ていたと思います。その辺りについては、誤解されないように修正されているようです。

また、大山小以外に高部屋小についても議題に出ていたと思います。そのあたりについては、資料3に記載しているとのことですので、それについては、後ほど詳しく説明させていただきます。

その他、意見はありますか。続きまして、次の議題に進みます。

(2) パブリックコメントの実施結果等について【資料2】

○会長

資料2の説明をお願いします。

○事務局

【資料説明】

昨年12月から実施いたしました基本方針案のパブリックコメントの実施結果等について、報告いたします。

まずは、項番1「庁内意見」です。パブリックコメントの実施にあたり、基本方針案に対して庁内意見を昨年11月4日～11月10日の期間で募集したところ、1件ございました。

第3章の「本市がめざす「これからの学校」の主な推進方策であるP33[安全・快適に利用できる持続可能な教育環境の整備]の実現イメージに、意見の通り、本市目標である「ゼロカーボンシティいせはら」と「再生可能エネルギーの導入」を追記しております。

つづいて、2ページの項番2「パブリックコメントの概要」をご覧ください。

パブリックコメントは、本市パブリックコメント実施要綱に基づき、市の政策等の形成過程における透明性と公正性を確保し、市民への説明責任を果たすとともに、市民への市政への参加を推進することを目的としており、

(1) 意見募集の期間のとおり、昨年12月8日から本年1月7日までを期間とし、実施いたしました。

(2) 意見の提出数ですが、6名の方から計19件の御意見を頂戴しました。

この御意見に対する市の考え方について(3)「意見及び市の考え方」をご覧ください。

まずは、意見に対する対応区分と件数です。対応区分は「A. ご意見を踏まえ、方針案に反映したもの」、「B. ご意見の趣旨が既に方針案に反映されているもの」、「C. 今後の施策や事業の参考とするもの」、「D. ご意見として承ったもの」の4つに区分し、今回の御意見に対する市の考え方をお示ししています。

B「ご意見の趣旨が既に方針案に反映されているもの」が7件、C「今後の施策や事業の参考とするもの」が12件として、整理いたしました。

各意見とそれに対する市の考え方については、資料の3ページ以降をご覧ください。

資料3ページのNo.1をご覧ください。望ましい学校規模の基準を定めること、各学校の特色等を生かしていくこと、そして、学校選択の自由化についての御意見です。

こちらについては、対応区分をB「ご意見の趣旨が既に方針案に反映されているもの」とし、市の考え方としては、市の基準を示した上で、対応策の検討にあたっては、地域の実情等を十分に踏まえ、慎重な検討を行うこととし、学校選択の自由については、望ましい学校規模等を実現するための対応策とは異なる視点での検討事項として、御意見として承るとさせていただきます。

つづいて、No.2及びNo.3につきましては、第5章「望ましい学校規模等に近づけるための対応策及び時期」についての御意見です。

No.2では、対応策についてはゼロベースで検討を進めるべき、市民全体での活発な議論の必要生についての御意見、

No.3は、対応策の検討の学校区域の考え方について、地域や中学校区といった区分けがふさわしいのか十分に検証が必要、場合によっては市域を跨がったの学校区域の考え方もあるのではないかとの御意見です。

それぞれの意見については、意見の中で既に記載の内容、または今後の参考とさせていただきます内容として、市の考え方を記載しております。

4ページのNo.4～No.6の御意見です。こちら3点の御意見については、方針案の第6章「望ましい学校規模等に向けた対応策の検討」の「対応策の検討に当たって配慮する事項」についての御意見です。

No.4は「通学区域の安全確保」について、No.5は「地域コミュニティへの配慮」について、No.6は「防災拠点・避難所機能」としての学校施設の位置付けについての御意見でした。

つづいて、No.7～次ページのNo.12までは、大山小学校の在り方や対応策の検討方法、小規模特認校制度等について、御意見を頂戴しました。

個別の学校の在り方については、本方針の策定後、次年度以降に検討をしてまいりますので、現時点では、今後の参考とさせていただきますこと、そして、対応策の検討に当たっては、結論ありきではなく、保護者や地域の皆様、学校関係者等と丁寧な話し合いを図っていく旨を市の考え方として記載させていただきました。

No.13については、「小中一貫校の検討について」の御意見、7ページのNo.14～No.16については、方針策定後の個別の学校の検討に際しての考え方や、教育施策の評価指標について、児童生徒数の減少に対する教員配置の考え方について御意見をいただきました。

No.17～No.19の3点については、学校施設の老朽化に対する対応や体育館へのエアコン設置についての御意見を頂戴いたしました。

どの御意見についても、本方針の策定、そして今後の個別の学校の在り方の検討に加え、教育施策等のソフト面、施設整備に関するハード面に至るまで、非常に幅広く、貴重な御意見を頂戴いたしました。

今回の基本方針の中に、すべての御意見を反映することはできませんが、今後の教育施策の推進にあたり、参考となる御意見を頂戴することができたと考えております。

つづいて、パブリックコメントの実施にあたって実施しました「市民説明会」の概要についてご説明いたします。

開催日時は、昨年12月14日（日）の午後2時から3時30分まで、会場は、本市中央公民館です。

参加者は、30人で、その内訳は、保護者の方が2人、一般の方が23人、市議会議員の方が5人でした。

まずは、教育委員会から基本方針案の概要についてご説明をさせていただき、その後、御参加いただいた皆様との質疑、意見交換を行いました。

意見交換における主な御意見ですが、児童生徒の減少について市全体で危機意識を持って議論していくこと、学校規模だけでなく市全体として子育て支援策であったり、人口増、まちの活性化への取り組むことの必要生について、御意見を頂戴しました。

ほかにも、施設の老朽化や大山小学校の検討に当たっての留意事項として、慎重に検討を進めること、そして、地域を巻き込んで、今後も地元との意見交換をするべきとの御意見を頂戴いたしました。

教育委員会としましても、個別の学校の在り方の検討にあたっては、結論ありきではなく、保護者や地域の方々、学校関係者等と丁寧な話し合いを進めていく旨を回答させていただきました。

説明は以上です。

○会長

ありがとうございました。ご質問はありますか。

○委員

パブリックコメント6名と、市民説明会の参加者について、可能であれば、参加者の年齢構成や種別についても教えていただきたいです。

○事務局

把握している範囲では、50代から60代の方が中心だったと思います。ほかにも、20代から40代の保護者の方も参加されていきました。参加者には、学校運営協議会の委員の方も多く含まれており、男女ともにいらっしゃいました。

○委員

パブリックコメントは6名の方から19件いただきました。これは、6名のうち複数件意見を出している方がいらっしゃるのか、あるいは1の方が複数件提出しているのでしょうか。

○事務局

パブリックコメントの「6名・19件」は、特定の1人の方が多数の意見を提出したのではなく、6名の方から、複数ずつご意見をいただいた結果です。お一人のかたが様々な御視点で意見を書いていただき、回答内容が分かれる場合は、事務局で意見を分類して整理したため、提出人数よりも件数が多くなっています。御意見を御提出いただいた皆様からは、非常に建設的な御意見をいただきました。

○会長

この19件のご意見は非常に貴重であり、説明会でのご意見も含め、パブリックコメントを受け付ける制度の重要性を改めて認識いたしました。私の方でも全て拝見し、この会議で議論していない点や、我々の考え方と異なる視点の意見がないか等についても確認いたしました。

特に気になったのは6番の「学校施設が持つ防災拠点としての機能」です。今日も日本海側では寒波や地震の報告がある中で、学校の防災拠点としての役割は重要であり、今後の学校存続を考える上で大きな要素として検討すべきことだと確認しました。

その他、9ページ目に整理された意見として、市全体の人口増や街づくり・街の活性化、各学校施設の老朽化の問題も挙げられています。これらは市民にとって関心の高い課題ですが、この会議の範囲とは異なるため、別の場で議論されるべき事項と考えます。

また、全体の19件や説明会での意見の中で、大山小学校に関する関心が特に高いことが分かりました。この学区の住民の方だけでなく、市全体としても大山小学校は重要な財産と認識されていると考えられます。今後の学校規模等の最適化を考える上で、大山小学校は非常に重要な位置を占めることを改めて認識しました。

他にご意見がなければ、続いて議題の3番目に移りたいと思います。

(3) 委員からの意見の取りまとめについて【資料3】

○事務局

基本方針の策定にあたり、これまで本検討会議は、今回を含めて全9回の検討会議を重ねて参りました。

その中で、委員の皆様からいただきました貴重な御意見につきましては、方針案の中にそのまま反映できたものとそうでない御意見、はたまた、今後の教育施策においてご参考とさせていただく御意見など、非常に多くの視点で御意見を頂戴しました。

委員の皆様のご意見については、これまでの会議の中で「前回会議の概要」という資料で、共有させていただいてまいりましたが、取りまとめに当たっては、それらを集約する形で、基本方針の附属資料として掲載させていただきたいと考えております。

第1回から第8回会議での会議概要を基に、御意見をカテゴリ分けして整理させていただきました。「学校規模・配置等に関する事」「授業・部活動に関する事」と「地域・保護者等に関する事」「学校施設・通学路等に関する事」「教職員に関する事」の5つに分けて記載いたしました。

たとえば、大山小学校の統廃合については「市民の方が心配していると思うので、誤解されないようにする必要がある」との御意見です。こちらは、前回会議の概要で御報告しました御意見となります。

このように、できるだけ委員の皆様から頂戴した御意見を幅広く掲載したいと考えておりますので、御意見を頂戴できればと考えております。

説明は以上です。

○会長

ありがとうございました。それでは、項目ごとに区切ってご意見をお伺いします。まずは学校規模や配置等に関する事です。資料の1ページ目に書かれておりますが、例えば一番上の「児童生徒推計では市内全体の人数が減少するものの、今すぐに統廃合が必要な状況ではない」との記述についてです。

この書き方ですと、あたかも個人的に考えた意見のようにみえますが、実際の会議では詳しいデータも説明され、現状としてすぐに統廃合が必要な状況ではないことが理解でき、一安心したという点が正確だと考えられます。したがって、読者にとっても安心できる記述にするため、「今すぐに統廃合が必要な状況ではないことを確認し、一安心した」という表現のほうが適切ではないかと考えます。このような形で皆さんのご意見も反映いただきたいと思います。

さらに1ページ目の一番下にある「小学校の通学基準は4km以内で通学時間はおおむね1時間」との記述についてです。小学6年生ならまだしも、小学1年生が1時間かけて通学するのは大変であると考えます。個人的には小学6年生であっても1時間の通学はかなり大変と思われるので、「あと小学6年生ならともかく」という部分は削除し、「小学1年生が1時間かけて通学するのは大変である」と示した方が正確ではないかと思えます。

ただし、「強い人間に育てるために小学6年生なら1時間くらい歩かせたい」という考えもある場合は、その意図も残すことで意見の趣旨は伝わるのではないかと考えます。

○委員

そうすると、小学6年生などという表現も削除していただいた方が、我々の意見として正確にお伝えできるのではないかと考えます。

○会長

委員の皆様には、遠慮なくご意見を述べていただきたいと思います。

それぞれが「私はこう考えていた」という点を正確に反映させるための、よい機会だと考えています。修正や追加を含めてぜひご協力いただきたいと思います。

よろしくお願いします。

○委員

中学生のアンケート結果では、1学級あたりの望ましい人数を31人から35人、または36人以上と回答しています。教職員は、教育を重視したいので25人から30人がよいという意見があり、小学校の教員は30人が理想であると書かれています。

アンケートの答えに対して、それぞれ書かれているのだと思いますが、これを連続して読むと、一体どれを重視しているのか分からなくなって、我々の意見がばらばらなイメージになってしまっているのかなと感じました。

どう整理すればいいのかな、と思いました。

○会長

私もおっしゃるとおり、読んでみると、話の流れがやや分かりにくい印象を持ちました。

ただ、1クラスの人数を何人にするかという点については、アンケートでも意見が確かに分かれていたところだと思います。

1クラスの人数を少なくした方が、学力面を考えるとよいという意見もあります。

一方で、人数が少ないと友達づくりの経験や、行事の活性化といった面ではどうなのか、という意見もあったと思います。

そう考えると、意見がばらばらに出てくるというのは、実態に近いのかなとも思います。

その点は難しいところです。読みやすさを優先するなら、書き方を工夫する余地はあるかもしれません。

○事務局

ただ今、委員からいただいたご意見を踏まえて対応したいと思います。

今回、アンケート結果の記載が3項目に分かれておりますが、真ん中の下の部分については、教職員の立場からのご意見としていただいております。内容としては、学級の人数はおおむね25人から30人程度というものになっています。

そのため、この2つのご意見を1つにまとめ、より広い視点で分かりやすい構成にしたいと考えています。ご指摘のあったように、意見が散在しているという印象を与えないよう、全体の構成を見直していきますので、よろしくお願いします。

また、今、会長がおっしゃったように、いろいろな考え方があるという点についても意見として付け加えて、立場や視点によって、学校規模や学級数についてはさまざまな意見がある、という内容を追加する形にしたらどうかなと思います。

○会長

いろんご提案をいただきありがとうございますけれども、いかがいたしましょうか。我々としては、事実ベースで対応したいと思うところもあります。

例えば、下から4つ目のアンケート結果にある教職員の声を重視して「1学級あたりの人数はおおむね25人から30人程度が望ましいのではないかと考えた」と整理すると、ここでは先生方の希望は25人から30人くらいだったということが分かります。

その下の「小学校の教員は1学級30人程度が理想であると考えてるので、毎年度、市や教育委員会に対して30人学級の編成の実現に向けた要望を行っている」という記載については、頼もしいな、という印象もあります。

そうすると、ここは各委員の意見として、30人程度を理想と考えているということが伝わりますし、誰の意向なのか、誰の考えなのか、より分かる形になると思います。

そのように整理して、このまま使うというのも1つの考え方かなと思います。

そうしましたら、次に2ページ目、3ページ目についてご意見をいただきたいと思います。最終的にいただいた回答について、事務局の方で一部手直しがあった場合には、私の方で拝見して、必要であれば直す、もしくはそのままお返しするという形で最終的に仕上げる、ということでお任せいただいでよろしいでしょうか。では、そのように進めたいと思います。

それでは、順次2ページ目に移ります。

また戻っても構いませんので、次は2ページ目の「授業、部活動等に関すること」についてです。

ここには5件挙げられていますけれども、これについて修正や追加はございますか。

個人的には、ここはよくまとめてくださったと思っています。

一番上のところですが、私もこの会議を進めていく中で改めて気づいたことがあります。

学校規模の最適化というのは、人口推計などを中心に考える話ではありますけれども、本当にその規模が適切かどうかは、子どもたちが分かっていないまま学習を進めていないか、楽しく学ぶ生活を送れているか、送れていないか、そこが基準になるという点です。

会議を重ねる中で、私自身もそこに気づいたところがありますので、「授業を理解できないまま進級する子どもが増えていくのであれば、その規模は適切ではない」という言葉が、きちんと残されている点については、この会議で我々が揉んできた内容が反映されていると思いました。

次にプールの問題ですが、これについても少し時間をかけて議論しました。

昔から考えると、学校にはプールがあって、夏にはプールの授業があって、夏休みにもプールに行く、というのが、我々にとっては当たり前の夏の過ごし方だったと思います。

ただ、現状を考えると、学校の負担はとても大きいですし、施設の維持も大変です。よく考えると、1年中使う施設ではありません。

そうした中で、民間で温水プールなどを持って運営されているところと連携するというのは、とても合理的な考え方だと思いますし、その点についても意見交換ができたことは良かったと思います。その内容も、きちんと残していただいていると感じました。

それから最後の部活動についてですが、「部活動は教育面において大変重要であるため、部活動で活躍できる先生の存在が今後も必要である」という点については、委員のご意見でした。これはとても大事な視点だと思います。

個人的にも、部活動は、中学生にとって本当に大切なものだと思います。

○委員

今の中学校の部活動をしっかり評価していただいている表現になっている点は、ありがたいと考えています。

一方で、中学校の部活動のあり方については、学校現場などで今後考えていかなければならない課題もあるのではないかと考えていますので、その点が少し分かるような表現を、事務局の方で検討していただけるとありがたいです。

課題として考えていく必要がある一方で、部活動をやりたい子どもたちがいること、また指導したいと考えている職員がいることも事実です。

部活動の重要性や大切さが伝わる表現を入れていただいていること自体は、大変ありがたいと思っていますが、今後検討していく必要があるという点も踏まえた記載にいただけるとよいのではないかと考えています。

例えばですが、「部活動のあり方については今後検討していく課題ではあるが、教育面において大変意義のあるものであり、部活動で活躍できる先生方の存在は大変大きいと考える」といった形に工夫していただけるとありがたいと思います。

○会長

ありがとうございます。

○委員

プールの件ですが、ここで、事故が起きる可能性がある、教員の負担にもなりかねない、というような書き方になっていますが、少し責任逃れのような印象を受けます。

教員の方の負担が非常に大きいという点は私も感じていますが、プール施設の管理は学校に任せるべきではないと思っています。

設備管理には高い専門性が必要で、対応を誤ると事故につながる可能性があります。

私は施設管理に関わってきた立場から、できれば教員負担の話というよりも、専門性や安全性の観点を前面に出した表現のほうがよいのではないかと考えます。

○会長

そうしますと、例えば二行目の書き方として、「老朽化したプール施設を使用することで事故等が起きる恐れがあるため、プール施設の管理は学校に任せるべきではない」といった表現が考えられます。

そうすると、現在の「教員の負担」という表現は削除する形になりますが、「老朽化したプール施設を使用すると事故が起きる恐れがあるため」あるいは「事故が起きる恐れがあることから」といった形で、安全面を強調する書き方に整理することもできると思います。

○委員

水泳の授業ですが、老朽化に限らず、プールの管理そのものが問題だと考えています。

プールの管理は、新しい施設であっても課題になると思いますので「老朽化」という言葉は除いたほうがよいのではないのでしょうか。

○会長

老朽化については、その前の表の中でも触れていますので、老朽化が怖いという点は残しつつも、そもそもプール施設の管理を学校に任せること自体を見直したほうがよいのではないかと、という意見につなげるのであれば、「老朽化している」という部分は削除する整理にしましょうか。

それでは続いて、その下の、「地域、保護者等に関すること」に移ります。

ゆっくり検討していただいて構いませんが、次の「学校施設、通学路等に関すること」についても含めてご意見をいただきたいと思います。

学校施設、通学路等に関することの中には、同じ意見が再掲されている部分もありますが、その点については、先ほどいただいたご意見のとおり修正するということでよいと思います。

そのほかにも、いくつか意見が出ていたと思いますので、確かに意見が出たという形で整理できているか、不足があれば教えてください。

また、最後の「教職員に関すること」についてです。

こちらも再掲になりますが、先ほどの部活動の話に関連する内容ですので、先ほどの議論に沿った形で修正していきたいと考えています。

教職員に関することは1つか2つの項目になりますが、全体を通していかがでしょうか。

気づいた点がありましたら、どのようなことでも構いませんのでご指摘をお願いします。

○委員

「地域、保護者等に関すること」についてですが、最後の項目の「保護者の話を聞く」「時代に合ったPTAが必要である」という記載についてです。

実はこの1年ほどで、市内14の小中学校のPTAが、この点にかなり取り組んでいます。PTAの在り方を考える学校が増えてきており、現在も検討が進んでいる状況です。

そのため、「必要がある」という表現よりも、「増えている」という方向に修正していただいたほうが実態に合っていると思います。

市内の教育関係の会議などでも情報共有されていますが、この議論はかなり活発に行われており、実際に組織の見直しや具体的な活動に反映されています。

そのため、これは今後の課題というよりも、すでに現在進行形で進んでいる取組として、「市内の小中学校のPTAで、時代に合った在り方を考える動きが増えている」といった表現がよいのではないかと思います。

○委員

PTAという表現よりも、「団体」や「組織」という言い方のほうが適切だと思います。例えば、「PTAの在り方を考える団体（組織）が増えている」といった表現が考えられます。

○会長

「時代に合った在り方を検討しているPTAが増えている」と修正したいと思います。

○委員

通学に関する記載の最後の2項目について、最後の「4km以内」については、再掲でも差し支えないのではないかと思います。

○会長

子どもたちの通学の現状は大きな課題だと考えています。現状を正確に伝えるという点からも、この内容は再掲してもよいと思います。

○委員

「地域・学校協働」と、3ページの下から3つ目にある「地域活動」ですが、内容が同じで、3ページの方が再掲になっていると思います。

○会長

重要な内容が複数の観点にまたがっている場合は、両方に掲載した方がよいと考えています。

○事務局

いただいているご意見は、大きく2つあると受け止めています。

1つ目は、地域・学校協働活動そのものを推進していくという視点です。これは「地域、保護者等に関すること」のカテゴリーに整理しています。

もう1つは、協働活動を進めたいが、学校施設に空き教室がなく、活動の拠点を確保しにくいという課題に関する視点です。この点については、「学校施設に関すること」として3ページに再掲しています。

このような整理で掲載しています。

○会長

よく分かります。私もコミュニティ・スクールの協議委員をやっていたときに、委員会は月に1回開いていましたが、それとは別に、必要に応じて集まろうという意見が委員の方から出ました。

学校のいろいろなことを地域の課題として考えていくために、この後は適宜、集まれる人が集まろうという建設的な話でした。

ただ、実際にはコミュニティ・スクールのメンバー用として学校内に部屋を一室確保することはできませんでした。

保健室として使う教室や、特別な支援が必要な子どもたちが増えていることもあり、以前と比べて教室の余裕が少なくなっている学校も出てきています。

対策を検討する立場からみると、これは学校施設の問題でもありますし、せっかく地域の皆さんが主体的に関わろうとしているのに十分に対応できないという意味では、地域の問題でもあります。そう考えると、両方の項目に入れたい内容だと思います。

ただ、こうした背景を知らないと、なぜ同じ内容が両方に入っているのか分かりにくいというのも自然な受け止めだと思います。

難しいところですが、少ないよりは多い方がよいという考え方で、両方に載せておくという整理もありだと思います。

「地域学校協働活動」という言葉自体が少し分かりにくい部分もありますが、今後、コミュニティ・スクールや学校運営協議会という言葉が一般の方にも浸透してくれば、あのことだと理解されるようになると思います。

そういう意味でも、今回は両方に掲載しておいて、気になる点があればまた意見をいただくということによいのではないのでしょうか。

○委員

気になる点として、学校規模配置等に関して「適正な学校規模にしていくには住民感情を考慮する必要がある」という表現ですが、「感情」という言い方だと少し強く受け取られる可能性があると思います。

住民の方のご意見やお考えを踏まえる、といった、よりやわらかな表現の方がよいのではないのでしょうか。

○会長

確かに、この書き方だと感情的に反対される方がいる、という印象を与えかねません。適正な学校規模を進めていくにあたっては、住民の方のお考えに十分配慮する必要がある、といった表現に修正するのがよいと思います。

○教育長

同じ主旨で、「保護者対応」という言葉についてですが、これは一般的な表現でしょうか。

○会長

「保護者等の授業以外の業務や、保護者対応等による教職員の業務負担が心配になる」という記載です。

○委員

学校現場の中では「保護者対応」という言い方は一般的ですが、対外的な文書としては少し硬く、業務的に聞こえる表現かなと思います。

実際には、保護者への対応も児童・生徒支援の一環として行っているもので、教職員にとっては大切な業務の延長線上にあります。そのため、「保護者対応」という言葉を単独で使うのではなく、「児童・生徒支援に関わる業務」の中に含める形で整理していただくのがよいのではないのでしょうか。例えば、「児童・生徒支援に関わる業務や、それに伴う保護者への対応等による教職員の業務負担」といった表現であれば、意図が伝わりやすいと思います。

○委員

教職員は授業以外にも、業務の範囲が多岐にわたると思います。

○会長

全部削ってしまって、「授業以外の業務や保護者対応等による」という部分は外して、「教職員の業務負担の増大が心配である」といった表現に整理するのはどうでしょうか。

○委員

業務内容が非常に多岐にわたってきているという実態はあると思いますので、具体的に書いてある方が分かりやすい面もあるとは思いますが、ただ、その表現によって誤解を招く可能性があるのであれば、委員長がおっしゃるように一度削っていただき、事務局の方でよりよい表現を精査していただけるとありがたいです。

○会長

そうですね。授業以外の業務や保護者対応が負担であるとか、否定的に受け取られることのないよう、ここは端的に「教職員の業務負担の増大が心配である」と整理しましょう。

○委員

教育長がおっしゃっている趣旨と合致しているのであれば、その表現でよいと思います。

○会長

この部分については、とりわけ先生たちの業務が非常に多様化している中で、それをサポートする環境を実現していくことが望まれます、という、シンプルですがとても大事なご意見だと思います。

○教育長

そういう形で整理していただいてありがとうございます。であれば、「他人の」という表現も取ってしまってよいかもしれないです。

○会長

言われてみれば、今以上に先生方をサポートする環境づくりというのは、反対されることはない内容だと思います。ありがとうございます。

私自身も気づいていない点がたくさんありますので、どうぞぜひ、皆さんからもご意見をいただければと思います。

○委員

先ほどのプールに関する意見ですが、「水泳の実技授業は必ずしも行わなくてもよいのではないか」というところまでは、授業に関する内容だと考えています。

一方で、その後半はプール施設の管理や学校の負担に関する内容であり、3ページに記載されている学校施設に関する事項に該当すると思います。

そのため、前半は授業に関する意見として整理し、後半は学校施設に関する意見として分けた方が、実態に即した整理になるのではないかと感じました。

プール管理の負担が学校に大きくかかっているという点は、学校施設としての課題として整理した方が分かりやすいと思います。

水泳の実技授業の在り方と、施設管理の問題を分けて整理することで、それぞれの論点が明確になると考えています。

○会長

老朽化という表現はすでに削除していますので、ここは1つの意見としてまとめるのではなく、論点ごとに分けて整理するのがよいと思います。

まず、「水泳の実技授業は必須でなくてもよいのではないか」という点については、授業活動等に関する意見として残します。その上で、プール施設の使用にあたり、事故などが起こらないようにするため、施設の管理を学校に過度に任せない方がよいという点については、学校施設に関する意見として整理するのが適切だと思います。

このように区分することで、授業の在り方と施設管理の課題がそれぞれ分かりやすくなると思います。

事務局にお伺いしたいのですが、これまでの会議で出された意見については、かなり丁寧に整理していただいていると感じています。

ただ、反映されていない点があるのではないかと思います、これまでの議論を振り返ってみました。本日でこの会議としての議論はいったん終了しますが、その後は、それぞれの学区にある学校運営協議会や、その他の集まり、地域コミュニティにおいて相談を重ねながら、この問題を長期的に考えていくかと思っています。

事務局として今後の進め方の点について、どのように整理されているのか、お聞かせいただければと思います。

○事務局

この方針が完成した後、個別の学校ごとの対応を検討していくにあたっては、各学校に設置されている学校運営協議会などを活用し、議論を深めていくという考え方になります。

その点については「今後の議論においては」という形で触れさせていただくことを考えています。

実際に、大山小学校の件につきましても、本方針のパブリックコメントとあわせて、学校運営協議会等で議論を進めていくという具体的な動きが始まっています。

そうした実例も踏まえながら、今後の進め方として記載できればと考えています。

○会長

その点については、改めて1つの整理事項として反映していただきたいと思えます。

それ以外の内容につきましては、本日皆さんにお諮りしている案を基本としつつ、部分的な修正については、私のほうで事務局と相談の上、対応させていただきたいと思えます。

ただし、出来上がった段階で、これまでの議論が完全に削除されているといったことがないように、あくまで本日の内容をベースに、必要な修正と今後の課題に関する追記にとどめたいと考えています。

そのような進め方でよろしいでしょうか。

それでは、本日いただいている議題はここまでということよろしいですか。
ありがとうございます。

○事務局

皆様、大変お疲れさまでございました。

冒頭に教育長からお話がありましており、本検討会議は今回をもちまして最終回となります。

つきましては、皆様から1人、一言ずつお話をいただければと思えます。

内容につきましては、この会議全体を通してのご感想でも結構ですし、望ましい学校規模に関する事、あるいは今後の学校の在り方についてのお考えなど、どのような内容でも構いませんので、よろしく願いいたします。

○委員

2年間、委員を務めさせていただきまして、ありがとうございました。

当初は、タイトルだけをみると、施設などハード面の議論が中心になるのではないかという印象を持っていましたが、実際には皆さんとお話しする中で、教育の中身についてたくさん意見交換ができたことを、とても良かったと感じています。

それぞれのお立場から、子どもたちが学校生活の中で得ているものや、良さについて伺うことができました。

例えば、小学校の頃に好きだったことや得意だったことを今も続けているという話や、同窓会などで中学校時代の話題で何時間も話が尽きないといったお話を聞くと、子どもたちが過ごす日々の積み重ねの大切さを改めて感じます。

今後、具体的な取り組みを考えていくにあたって、そうした子どもたちの生活の中身を見失わずに進めていきたいと思えました。

アンケートなどで子どもたちの声を拾い上げることは、業務として大変な面もあると思いますが、大人だけの議論に偏らず、実際の子どもの声を踏まえながら、より良い方向に向けて、私たちも力を添えていければと思っています。

本当にありがとうございました。

○委員

まずは事務局の皆様へ、この会議に臨むにあたって、丁寧に資料を作成していただいたことや、事前にご説明をいただいたことについて、改めて感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

学校では、例えば令和8年には1年生が7クラスから8クラスになる可能性があるなど、子どもの数が増えていく状況に直面しています。

教室配置をどうするのかといった課題は、まさにこの会議で議論してきた内容と重なる部分が多く、来年度以降の学校像を描く上で、今回の議論が現実の課題として実感される場面もありました。

日々の学校生活の中では、数年先の伊勢原の子どもたちや学校教育について、腰を据えて考える機会はなかなか持ちにくいものですが、さまざまなお立場の委員の皆様のお話を伺う中で、学校は地域の中にある存在であり、地域の方々に支えられながら成り立っているのだということを改めて感じました。

これからも地域の方々や皆様の期待を受けながら、役割を果たしていく存在なのだ実感できた、貴重な時間でした。

本当にありがとうございました。

○委員

保護者の立場から参加させていただき、2年間務めさせていただきました。

最初に、これだけ分厚く、詳細な資料をもとに皆さんと議論を重ねる場を支えてくださった事務局の皆様へ、心より感謝申し上げます。資料の作成や取りまとめ、本当にありがとうございました。お疲れさまでした。

当初は、保護者の方々から「この学校はどうなるのか」といった声を多く聞いていました。私自身、そうした不安の声に日常的に触れてきました。

しかし、会議を進める中でデータを丁寧に見ていくと、必ずしも悲観的に捉える必要ばかりではないのではないかと感じるようになり、個人的にも一つ安心できた部分がありました。

それ以上に大きかったのは、単に「危ない」「不安だ」といった感情だけで終わるのではなく、現状を共有した上で、どのような対策が考えられるのか、そして何より、子どもたちの教育や成長、地域がどのように関わり、前向きに参加していけるのかという本質的な部分について、皆さんとじっくり議論できたことです。

その議論を、このような形としてまとめることができたことを、とてもありがたく、幸せに感じています。

この場で共有された前向きな思いや姿勢は、必ず子どもたちにも伝わっていくものだ、保護者として感じています。

本当に有意義な2年間でした。どうもありがとうございました。

○委員

私は都市計画の視点からも少しお話をさせていただきました。

伊勢原市では、新東名インターチェンジ周辺や、駅北口の整備、さらには小田急の新総合車両場など、今後も人口が増加していく見込みがある状況だと思っています。そうした中で、都市と学校との連携についても、この会議の中でいろいろと整理していただけたことに感謝しております。

また、特に最近の小田急沿線周辺では、「新しいまちづくり」という視点で、「スマート」というキーワードを軸に、スマート農業など新しい技術を取り入れながらまちづくりが進められていると感じています。

ぜひ、そうした新しい技術や取り組みを、教育の場にも積極的に活用していただき、まちづくりと教育が連携していくことで、さらなる技術の発展や伊勢原市全体の成長につながっていくのではないかと思います。

この計画の中には、まちづくりとの連携についても触れられていますので、ぜひ、まち全体で子どもたちを育てていくという視点を大切にしながら、今後も進めていただければと思います。ありがとうございました。

○委員

私は長年、特別支援教育に携わってきた立場から、この会議に参加させていただきました。

これまで、学校規模のことや防災、施設面などについて深く知る機会があまりなかったのですが、今回の会議を通して、そうした点についても大変多くのことを学ばせていただきました。

来年度には、この基本方針が冊子としてまとめられるということですが、非常にクオリティの高い内容になると感じています。特に30ページに記載されている内容は、私自身が平成17年から特別支援教育に関わってきた、約20年間の取り組みと重なる部分が多くありました。

1つ目の「チームによる指導体制」については、20年前は担任の先生一人が抱え込んでしまうような状況もありましたが、現在では学校内外のさまざまな立場の人が集まり、子どもを中心としたチームをつくる体制が整いつつあると感じています。

2つ目の「多様なニーズに応じた支援」についても、かつての一斉授業中心の形から、一人一人の状況に応じて、同じ場であっても支援の形を工夫していくという考え方が、20年かけて積み重ねられてきましたし、これからも丁寧に続けていただきたいと強く思っています。

3つ目の「ICTの活用」については、ここ数年で大きく進んだ分野だと感じています。以前は、ICTが得意な先生が特別な存在として注目されるような状況でしたが、今では多くの先生方が自然に使いこなしている姿を見て、非常に大きな変化を感じています。

これら3点はいずれも今後も継続していく重要な取り組みだと思いますが、特にICTの活用という点では、最近の共通テストでAIが高得点を取ったという話題もあり、これから子どもたちにどのような学びを提供していくべきなのか、どのような力が求められるのかを、改めて考えさせられました。

以上です。ありがとうございました。

○委員

私は、最初にこの「学校の在り方検討会議」があるから委員になってほしいというお話をいただいたとき、正直なところ、いつもの勢いで「いいですよ」と軽く引き受けてしまいました。

そのあと、始まるまでの間に周りの人に相談すると、「大変な会議の委員になったね」と言われて、少し不安になりつつ参加したというのが正直なところではあります。

実際に始まってみると、事前に資料がとても丁寧に準備されていて、話し合いもしやすいように事務局の皆さんがしっかりと整えてくださっていたので、安心して参加することができましたし、私自身とても勉強になりました。

会議が始まる前は、どこかの学校がすぐにでも児童数が減って大変な状況になるのではないかと心配していましたが、資料を見ていく中で、少なくとも「今すぐ」という話ではないことが分かり、まずは安心しました。

一方で、40年後という長い視点で考えると、やはり今から手を打っていく必要があるということも理解できました。

この会議で学んだことは、これから自分の周りの人たちにも少しずつ伝えていって、「伊勢原市の教育委員会はこの考え方で取り組んでいるんだよ」ということを広げていけたらいいなと思っています。

とても勉強になりました。ありがとうございました。

○委員

私も改めて、とても勉強させていただいたと感じています。

自分の立場については、今でもはっきり説明できるか分からないところがありますが、民生委員として活動しています。

学校に行くと子どもたちと挨拶を交わすことはできますが、近所ではなかなか子どもたちから挨拶をしてもらえないことも多く、場合によっては「知らない人に声をかけられた」という受け止め方をされてしまうこともあります。

そのため、いきなり声をかけるのではなく、まずはにこっと笑ってみるとか、こちらから挨拶をすることを心がけてきました。

実際、近所で、親子でキャッチボールをしているお子さんがいて、その子が中沢中学校に通っていると知っていたので、野球のことを少し声に出して応援したところ、少しずつ顔を覚えてくれるようになったこともありました。

一方で、自宅の前を通る伊勢原高校の生徒さんには、なかなか挨拶が返ってこないこともあり、難しさを感じる場面もあります。

今回の内容にも通じますが、人と人との関わり方が昔とは変わってきている中で、これでいいのかなと考えながら日々過ごしています。

それでも、「自分から関わっていくことが大事なんだ」と思い、できる範囲で声をかけたり、話題を提供したりできたらと考えています。

また、この会議を通して、自分の考えが浅かったと気づくこともありました。以前、プールはなくしてもいいのではないかと思ったことがあったのですが、防災訓練に参加した際に「プールの水は防災用に使われる」と聞き、その考えは見直さなければならぬと感じました。

この会議の中でもそうした視点が示されていて、自分の理解が深まったと思っています。

分からないことも多い中でしたが、この会議に参加させていただき、多くのことを学ぶことができました。ありがとうございました。

○委員

2年間ありがとうございました。

私は市民という立場で参加していて、ここにいらっしゃる皆さんの中では、たぶん一番素人目線でコメントを求められる立場だったと思います。

そのため、意見をお願いしますと言われても、何をどう話せばいいのか悩むことも多くて、自分の中では難しさを感じる場面もありました。

一方で、自分の仕事とは直接関係のない伊勢原市の教育という分野の課題を、自分ごととして考える機会をいただけたこと、また、ここにいらっしゃるさまざまな専門分野の方々の意見を、自分の立場で受け止めて考えることができたことは、とても貴重な経験だったと感じています。

若い感覚の中で、いろいろな課題に触れられたという点でも、自分にとっては大きな学びでした。

毎回、仕事の休みを取って参加していましたが、今振り返ると、その時間を使って参加して本当によかったと思える2年間でした。

正直、今すぐに何か行動に移せることがあるかという点、そうではないかもしれませんが、これから先、ライフステージが変わり、立場も変わっていく中で、教育に関わる場面も出てくると思います。

そのときには、市民としてこの教育という課題を自分ごととして捉え、一つひとつ何か行動できたらいいなと考えています。

2年間、本当にありがとうございました。

○委員

私は、地域住民の代表という立場で参加させていただきました。

これまでの議論の中では、大山地区に関する話題が多く出てきていて、とくに大山小学校については、多くの方が今後どうなるのか関心を持っておられると感じていました。

大山地区の現状は刻々と変化していますので、地域の情報については、今後も教育委員会の皆さんにお伝えしていく必要があると感じていますし、教育委員会の側でも地域の実情を把握していただけるとありがたいと思っています。

私は現在、高部屋地区に住んでいますが、高部屋地区ではインターチェンジの整備が進み、地域が活性化しています。

その一方で、大規模な工事により道路の形状が大きく変わり、通学時、とくに小学校低学年の子どもたちにとっては、横断が難しくなっている場面も見受けられます。

今後、高部屋地区では人口が増えていく可能性もあり、地域の状況は引き続き変化していくと考えています。

そうした中で、自治連と教育委員会がしっかり連携し、地域の情報を共有しながら対応していくことが大切だと思っています。

私の方からも、地区の課題について情報提供をしていきたいと考えていますし、必要があれば現地も見えていただけたらと思っています。

1年間という短い期間でしたが、ありがとうございました。

○会長

まずは皆さん、2年間本当にお疲れ様でした。

事務局の皆さんにも大変お世話になりました。

特に前半では、さまざまな資料を用意していただきましたが、正直に申し上げて、私が想像していた以上に詳しく、丁寧で、非常によく整理された資料でした。行政としての力の高さを感じましたし、安心してこの会議に臨むことができました。

2年間を振り返ると、感謝の気持ちばかりです。

この会議のお話を最初にいただいたのは、2023年度、当時の教育長でいらっしゃった山口先生からでした。そのとき私は、正直なところ「これは自分が悪者になる役割なんだろうな」と思いました。当時、他の自治体ではすでに統廃合の結論が出ているところもあり、神奈川県内でも同様の動きがありましたので、伊勢原市でもいずれそうなるのだろうと考えていました。市民の方が決断しづらい話であれば、外から来ている自分が引き受けよう、そう覚悟を決めてこの役をお引き受けしました。

そのため、会議の前半はかなり重い気持ちで、資料も細かく読み込まなければいけないと思いながら参加していました。

ただ、実際にいただいた資料は、将来の見通しまで数字で丁寧に示されていて、「思っていた以上に状況は落ち着いている」と感じることができました。

率直に言えば、そこで大きな安心を得ました。後半に入る頃には、気持ちも落ち着いて、この会議を少し違った視点でみるようになりました。2年間通して参加してくださった委員の方もいれば、途中から1年間参加された方もいらっしゃいました。教育長も交代され、部長の皆さんも変わりました。

この会議では学校規模の最適化について議論してきましたが、考えてみると、私たち委員も、今日で一区切りになります。人は変わり、組織も変わっていきますが、学校は残っていくということに、改めて気づかされました。

当初は統廃合が前提になるのではと思っていましたが、市民の皆さんのお考えや、学校を中心とした地域のコミュニティの強さを知り、学校は簡単になくなるものではないのだと感じました。

よく「教育は百年の計」と言われますが、私はこの会議を通じて、少し違う捉え方をするようになりました。

人や組織は変わっていくけれど、学校は地域の自然の一部のように、これからも残り続けていく存在なのだと思います。

皆さんが自分の母校を大切にし、自分の住んでいる地域を大切にしているからこそ、学校もまた残っていくのだと感じました。このことを、この会議で学ばせていただきました。最初は重い役割だと思っていましたが、結果として、非常に勉強になる2年間でした。

この経験を持ち帰り、私自身も学生たちにとって大切な母校という存在を、これからは大事にしていきたいと考えています。

また、いつかどこかで皆さんとお会いして、昔話やこれからの伊勢原についてお話しできることを楽しみにしています。

本日をもちまして、この会議は最終回となります。これまでご協力いただき、本当にありがとうございました。事務局の皆さんも、どうもありがとうございました。

○事務局

皆様、貴重なお話をいただき、どうもありがとうございました。

一点だけ、私の方から補足をさせていただきます。

先ほどプールに関するお話をいただきましたが、現在、災害対策の一環として、生活用水の確保という観点から、学校に井戸を掘る取り組みを進めております。

皆様のご意見は、今後の検討にしっかりと生かしてまいりますので、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

それでは、本市教育委員会を代表いたしまして、宮村教育長よりご挨拶を申し上げます。

○教育長

朝倉会長、そして前場副会長をはじめ、委員の皆様には、これまで本当にありがとうございました。

また、事務局の仕事に対しまして、大変ありがたい評価のお言葉をいただきました。代表して御礼申し上げます。ありがとうございます。

本日をもって検討会議は終了し、この基本方針は今年度中に策定される運びとなります。

ただ、私としては、これがゴールだとは思っておりません。むしろスタートだと考えています。

この基本方針をもとに、これからの伊勢原の学校教育を、皆さんと一緒に前に進めていかなければならない、そう感じています。

以前にもお話ししたかもしれませんが、10年ぶりに伊勢原に戻り、教育の仕事をする中で、伊勢原の強みが2つあると実感しています。

1つはスケールメリットです。小学校10校、中学校4校という規模の中で、教育委員会として議論を重ねる中でも、皆さんのご意見やご指摘を伺いながら、全ての学校の様子や実情が頭に思い浮かぶ。

それぞれの学校、地域に特色はありますが、全体をお互いに把握し合える関係性にあるというのは、なかなか他の市町村にはない強みだと感じています。

もう1つは、地域とのつながりです。10年前に伊勢原の学校で仕事をしていた時と同じ方々が、今も各学校を支え続けてくださり、そこに新しい方々が次々と加わっている。

私が伊勢原で教育に携わる以前から、こうした風土や文化が育まれてきたのだろうと感じています。

これからの学校教育の目指す姿を実現していくためには、このスケールメリットと地域とのつながり、2つの強みを生かさないと考えています。

先ほど朝倉会長から「学校は残る」というお話がありました。私も改めて教育委員会の年表をみながら、各学校の成り立ちを振り返っていました。

例えば大山小学校は、明治6年にはすでに学びの場として存在しており、制度としての学校以前から、この地域には子どもたちの学びがあり、それを地域の方々が支えてこられたのだろうと想像できます。

その後、子どもたちの増加に応じて新たな学校が生まれ、戦後には中学校が設置されるなど、時代とともに学校の姿は変わってきました。

教育という営みは、人類の未来へと続いていくものです。学校の姿も、時代に合わせて変わっていくことは自然なことなのかもしれないと、改めて感じています。

今回、大山小学校については特に注目され、来年度からさまざまな検討を進めていくこととなります。これまでも申し上げてきましたが、決して結論ありきで考えているわけではありません。

ただし、今のままで本当に大丈夫なのか、という懸念があるのも事実です。

委員の皆様から、小規模特認校制度はとても重要だというご意見をいただきました。私もそのとおりだと思っています。

一方で、この4月に特認校制度を活用した大山小学校に地区外から入学予定は2名という状況です。

制度の意義や、大山小学校の小規模ならではの教育の魅力や成果を、もっと積極的に発信していく必要があると感じています。

大山地区の方々が大山小学校のこれからを真剣に考えてくださっているのと同じ熱量で、地区外の方々にも、伊勢原の1つのシンボルとして大山小学校を考えてもらえるような機会をつくっていかねばなりません。

そしてこれは、大山小学校だけの話ではありません。今回の「学校の在り方に関する基本方針」は、14校すべての今後に関わるものです。

先生方は日々、本当に当たり前のように、全力で教育に向き合ってくださいますが、その「当たり前」がどれほどすごいことなのか、保護者や地域の方々に十分伝わっているかということ、まだ課題があると感じています。

来年度は、この基本方針の趣旨をもとに、教育委員会として積極的に発信し、皆さんとともに議論する機会をしっかりと設けていく。

その点を特に強化していきたいと考えています。

改めまして、委員の皆様には、2年間、あるいは1年間という長い期間にわたり、お忙しい中、毎回それぞれのお立場から貴重なご意見をいただきました。心より感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。

【閉会】

○事務局

最後に、私の方から、この基本方針の確定に向けた今後のスケジュールについてお伝えいたします。

まず、来月に教育委員会議が予定されておりますので、そちらの会議において、本基本方針の策定について議案として提出いたします。

その後、伊勢原市議会の3月定例会におきまして行政報告を行い、終了後、市のホームページを通じて市民の皆様へ公表する予定となっております。

また、今後改めて、皆様にご協力をお願いする場面もあるかと思っておりますので、その際はどうぞよろしく願いいたします。

それでは、以上をもちまして、伊勢原市立小中学校の望ましい学校規模等に関する在り方検討会議を終了とさせていただきます。

2か年にわたり、これまで本当にありがとうございました。